

第 1 章

生駒市環境基本計画の ビジョン

この章は、生駒市を環境面からみたビジョンの紹介をしています。

ビジョンとは「将来像」のことで、「生駒市を将来どのようなまちにしたいか」「将来どのようなまちになっている必要があるか」を表現したものです。

この章で紹介するビジョンは、自然環境、せいかつ環境、まち・みち環境、エネルギー環境のそれぞれの分野からみた「分野別ビジョン」と、それらを総合した「総合ビジョン」を掲載しています。

また、ビジョンの背景として、策定の過程で議論された「地域や社会の環境問題」や「私たちの課題」なども紹介しています。

1 総合ビジョン

きらきら さらさら すいすい
 気持ちのいい「音」があふれています
 わいわい がやがや わくわく
 たのしそうな「声」があふれています

徒歩や自転車で「いこま」をめぐると感じます
 生駒山や矢田丘陵の恵みをいただき 竜田川の清流が流れる
 自然がいっぱいの緑ゆたかなまち

「こんにちは～」「気をつけて～」「ありがと～」
 自然と声をかけあいます

宝山寺 往馬大社 暗峠など万葉集にも詠われた歴史のまち
 魚が泳ぎ 鳥がさえずり 虫の声が心地よく聞こえる
 四季を感じるまち
 たくさんの人たちが電車・バスで訪れる魅力あふれるまち

私たちのいこまはいろんな「顔」を持つ
 とても素敵なまち

住む人 働く人 訪れる人 みんなの知恵と協力と
 科学の力を利用して 築いてきた姿です

私たちは学びました みんなで力を合わせれば
 夢はかなうということを 夢は守れるということを

私たちはつながります
 未来ある子どもたちに このまちを

豊かな自然と歴史と未来が融合したまち
 「いこま」

2 分野別ビジョン

自然環境分野 ビジョン

四季を感じられる生駒

~ いつでも身近に
多様な動植物とふれあえるまち ~



せいかつ環境分野 ビジョン

「すてる」をすてた
地球にやさしい暮らし

みんなとっても買い物じょうず
みんなとってもやりくりじょうず
みんなとっても輝いています

「すてる」ことをやめて
みんなで勉強して
力を合わせてがんばったら
素敵なまちになりました
素敵なくらしができるようになりました

これからも地球にやさしく、家計にやさしい
住みよいまち「いこま」で暮らしていきます



まち・みち環境分野 ビジョン

歩きたくなる たのしいまち・みち

市内の生活環境が整いました。
市内をミニバスが走っています。
公共交通機関や代替交通で気軽に
出かけられます。
通勤・通学や買い物も通院も、
便利になりました。外出が楽しみです。
道路は整備され、
まちなみは花と緑が豊かです。
たのしく歩けるまちなみです。
市民や観光客は市内をらくらく
サイクリングで生駒の自然や文化を
愛する仲間と生駒の魅力の再発見を
しています。



エネルギー環境分野 ビジョン

省エネと自然エネルギーで
快適に暮らせるまち

私たちは生駒の豊かな自然の恵みを大切に、
太陽光発電、雨水利用などにより自分たちの
使うエネルギーを創り出している。
そして、企業や個人を問わずエネルギーを
効率よく使うライフスタイルが広まり、
無理なく無駄なく快適なまちに暮らしている。

3 私たちが感じた地域の問題・課題

自然環境分野 問題から課題

川について
感じる問題

- 生活排水による源流部からの川の水質の悪化。
 - 課題
 - 生活排水をきれいにする。
 - 生活排水の浄化効果を把握できるような活動を広めよう。
- 宅地化や開発、里山里地の荒廃により、土地の保水力が減少し、川の水量も少なくなっている。
 - 課題
 - 川に水をもっと増やそう。
 - 雨水の利用を広めることで竜田川流域の水量を高める。（雨水が一気に川に流れ込むのではなく、ゆっくりと川に流れ込む環境を整え、年間を通じて、川に水が流れるようにする）

里地について
感じる問題

- 高齢化などによる遊休農地の増大や竹林の侵食。
 - 課題
 - 遊休農地の減少を図る。
 - 市民が関わる農園を増やす。

山地について
感じる問題

- 化石燃料の利用などにより、人の生活と疎遠になり、山林の管理がなされず荒れ放題のところが増え、竹林にも侵食されている。
 - 課題
 - 森林の手入れをしよう。
 - 山林を管理する事業者を市民が応援・所有することで山林を保全する。

まちなかの緑
について
感じる問題

- 市街化区域の田畑や樹林地、古木などが減少している。
 - 課題
 - 緑を残すような開発をしよう。
 - 今ある自然を大切にしよう。

環境教育
について
感じる問題

- 小中学校でも環境教育が行われているが、地元との連携や地元のことを本当に理解して行われていない。
 - 課題
 - 地域の協力を得て、地域の現状を伝える環境教育を行う。
 - 学校教員に生駒の自然の状況を伝える。

📖 自然環境分野の課題を解決するためのプロジェクトは、33ページ以降をご覧ください。

せいかつ環境分野 問題から課題

ライフスタイル
について
感じる問題

- 消費サイクルが速すぎ、使い捨ての品物が多い。
- 無駄な買い物が多い。
- 本当に環境にやさしい品物についての情報がわかりにくい。

- ➡ **課題**
- ものを大切にする生活を広めよう。
 - 環境にやさしい買い物をしよう。

ごみ
について
感じる問題

- 家庭からの生ごみ、容器包装ごみが多く、リサイクルの仕組みができていない。
- 過剰包装が多い。

- ➡ **課題**
- ごみを減らす活動を広め、ごみを減らそう。
 - 容器包装ごみを減らそう。

資源利用
について
感じる問題

- 石油（ガソリン）、ガス、電気、水の無駄づかいが多く、資源循環型社会になっていない。

- ➡ **課題**
- 自分が使用している資源の量を知り、資源を大切に使う。
 - 廃食用油（使用済みてんぷら油）を回収して資源として活用する。

環境教育
について
感じる問題

- 体系化した環境教育プログラムがなく、継続して行われていない。
- ごみの分別、リサイクルが人任せで、自分の問題として感じていない。

- ➡ **課題**
- 体系化した環境教育を継続的に行う。
 - 楽しみながら環境のことを学べる場をつくる。

🔍 せいかつ環境分野の課題を解決するためのプロジェクトは、41 ページ以降をご覧ください。

環境教育の課題は、分野を越えて取り組むことにしました。
それらのプロジェクトについては、27 ページから 30 ページをご覧ください。

3 私たちが感じた地域の問題・課題

まち・みち環境分野 問題から課題

歩くこと・ まちなみ について 感じる問題

- ・ 趣あるまちなみや商店街が活かされていない。
- ・ 人・乳母車・車椅子が通りにくい。
- ・ 駅周辺では放置自転車・バイクに歩道がふさがれるため歩きにくい。
- ・ 道路保守に市民参画がない。
- ・ 街路樹や公園・緑地からの落葉の清掃、害虫などの問題が発生しているが管理が困難。
- ・ 歩くための道に緑がなく、歩く気にならない。
- ・ 通過するだけの道になっている。
- ・ 犬の糞、ごみやタバコのポイ捨てがある。



課題

- ・ 歩きたくなるたのしいまち・みちをつくろう。
- ・ 自家用車に頼らない生駒をつくろう。

公共交通 について 感じる問題

- ・ 市内各地から駅や諸施設に行くのが不便。
- ・ 移動方法がないか、もしくは不便な地域がある。
- ・ 高齢者や障害者や怪我をした人、乳幼児を抱えた人、車を運転できない人の移動が困難。
- ・ 送迎車両・路上駐車で、駅前の交通渋滞が頻発。



課題

- ・ 公共交通を安くて便利で楽しく使いやすくする。
- ・ 交通手段がない地域をなくそう。
- ・ 交通弱者をなくす。

自転車 について 感じる問題

- ・ 自転車が安すぎるために大切にされず、安易に買い換えられている。
- ・ 自転車が交通手段として理解されていない。
- ・ 道路が狭く、自転車の通行が危険である。



課題

- ・ 環境に優しく、健康づくりにも有効な自転車を交通手段に組み込もう。

車 について 感じる問題

- ・ アイドリングストップやエコドライブをする市民・事業者が少ない。
- ・ 送迎車両で、駅前の交通渋滞が頻発。



課題

- ・ アイドリングストップ、エコドライブをする市民・事業者を増やす。
- ・ 自家用車に頼らない生駒をつくろう。

☞ まち・みち環境分野の課題を解決するためのプロジェクトは、49 ページ以降をご覧ください。

エネルギー環境分野 問題から課題

日常生活での
エネルギー
使用について
感じる問題

- エネルギー消費の多い生活スタイルになっている。
➡ **課題** [・ エネルギーを効率よく使うライフスタイルを広めよう。]
- 省エネ情報が不足している。
➡ **課題** [・ 省エネ情報を見つけ、広めよう。]

新しい
エネルギー源
確保について
感じる問題

- 雨水利用が普及していない。
➡ **課題** [・ 雨水利用を広めよう。]
- 自然エネルギーが普及していない。
➡ **課題** [・ 自然エネルギーを広めよう。]

企業活動に
伴うエネルギー
使用について
感じる問題

- 24時間、深夜営業の店が多くなっている。
➡ **課題** [・ 終夜、深夜営業を見直そう。]
- 自動販売機が多い。
➡ **課題** [・ 不要な自動販売機を減らそう。]
- 冷暖房を過剰に効かすことがサービスとされている。
➡ **課題** [・ 過度な冷暖房を減らそう（店舗や施設など）。

🔍 エネルギー環境分野の課題を解決するためのプロジェクトは、63ページ以降をご覧ください。

4 課題の背景

スタート

委員委嘱式とお互いを知り合うワークショップ【第1回平成19年3月29日】

Step
1

生駒のよいところ あらためたいところ【第2回平成19年4月11日グループ討論から】

よいところ 残したいもの 好きなところ

自然

緑が多い、自然が多い 自然と街がうまく共存している
身近にある多くの自然とその風景
身近な緑と大きな緑が調和している
田園風景、ほどよく田舎
都市に近いのに自然が多い 自然と都市が接近している
大阪や京都に近いのに、まだ田舎なところ
夜が暗い 夜景がきれい
四季の変化が美しい
生駒山の四季折々の風景、眺め（登山にもよい）
生駒山に沈む夕日
矢田丘陵の雑木林
山が身近にあり、ひろびろとしている
竜田川の桜 富雄川の風景 川に魚がいる
生駒山からの水のながれ 水がおいしい
くろんど池付近の景観
気候が良い、夏は涼しく、空気も良い

まち・社会インフラ

公園、図書館、コミュニティセンターなど公共施設が充実
大阪府、奈良市へのアクセスが便利
田舎暮らしも楽しめ、都会へのアクセスもよい
仕事と生活の区別ができる
自然と調和した美しい住宅地
身近な場所に自然とふれあう場所がある
小学校の通学路途途中で遊び場が多い
買い物などの面でも住みやすい
びっくり通り商店街の風情
散歩できる歩道がある
騒音がほとんどなく静か
市内の道路にごみが少なくきれい、街がきれい
まちと田舎が共存しているところ
寿大学の開催 教育環境に恵まれている
学校で子どもにお茶を教えてくれる
バランスが良いまち

産業

高山を中心とした地場産業（茶釜づくりなどの伝統産業）

歴史・景観

歴史的な文化財、国宝級の神社・仏閣が多い
伝統行事が多く残っている
門前町から宝山寺への歴史を感じさせる景観
暗峠の風情
西畑町の棚田景観

人情

子どもが元気 地域の人が親切 人が良い
小学校の教師や保護者がとても協力的
住民が上品、おとなしい
治安がよい、平和 文化がある
リズムがゆったりとしている

あらためたいところ よくないところ

自然

竜田川が汚い 河川環境が劣悪 水量が少ない
池が汚い ため池がなくなりつつある
親しめる水辺が少ない
富雄川の護岸が人工的 川が人工的すぎる
里山が放置され荒廃している
遊休農地が増加している
歴史性など、生駒らしさが活かされていない
宅地開発で自然破壊がすすんでいる

まち・社会インフラ

東西と南北において交通の便利さに差がある
市内移動が不便 住居地が飛び地で交通機関での移動が不便
車がないと移動が不便
施設の利用が不便
都会への通勤者が多く、家には寝に帰るだけの人が多い
幹線道路の街並み景観がよくない
環境関連情報を統一的に学べる施設がない
宅地が進み、緑が減少している まちなかの緑が少ない
駅前付近に自然が少ない
不法投棄のごみが目につく
山麓公園の下の山道にごみが山積している
行政施策が中地区中心に感じる
バス路線が充実していない
自転車や徒歩で安全に生活できる街になっていない
町中や駅周辺は歩道が狭く、ゆったりと歩けない
自転車で楽しめる場所が少ない
生駒駅周辺の車・自転車の駐車マナーが悪い
交通渋滞がひどい
子どもの居場所が少ない
博物館・科学館など子どもが楽しめる施設が少ない
娯楽施設、遊ぶ所が少ない
ハコモノ施設が多い
憩える公園が少ない

産業

地元の特産物が少ない あっても知られていない
いろんな世代の人が楽しめる街になっていない
観光地が少ない
商店街から活気なくなりつつある
旅館がさびれてきている

歴史・景観

ごみの分別が甘い 住民のごみへの意識もすごく低い
草木ごみの収集がない
暮らしが豊かすぎる（エネルギーを使い過ぎ）
坂道が多く、買い物が大変

人情

人のつながりが弱い
まちづくり活動に参加される人が固定化している
やや排他的なところ
文化をつなぐ力が弱い
転入者が多いためか、他地域と比較されることが多い
物事を行政や他人任せにするところがある
自治会に参加してくれない転入者が多い

テーマ・分野別学習とさらなる問題の洗い出し【第3回から17回まで】

Step
2

分野別学習
【第3回から第12回】

- 第3回 平成19年4月25日(水)
テーマ「地球環境問題」
グループワーク「コミュニケーション演習」
-
- 第4回 平成19年5月9日(水)
テーマ「生駒市内の環境活動、実践者からの報告」
グループワーク「こんな生駒に住みたい。
こんな生駒にしたい」
-
- 第5回 平成19年5月23日(水)
テーマ「生駒市の計画体系、環境基本計画の位置づけ」
「地球温暖化の現状と将来予測」
グループワーク「私の暮らしと環境とのつながり」
-
- 第6回 平成19年6月6日(水)
テーマ「生駒市のごみ問題を考えよう」
(分野別・現計画の到達評価1)
グループワーク「生駒のごみ問題、ここが気になる」
-
- 第7回 平成19年6月23日(土)
テーマ「ごみ・自然フィールドワーク」
視察先 エコパーク21、花のまちづくりセンター
ふるーらむ、清掃センター、竜田川浄化センター
-
- 第8回 平成19年7月11日(水)
テーマ「生駒の自然」(分野別・現計画の到達評価2)
グループワーク「生駒市の自然・好きなところ、
問題だと思ふところ」
-
- 第9回 平成19年7月25日(水)
テーマ「生駒の交通」(分野別・現計画の到達評価3)
グループワーク「交通に関して、ここが問題」
-
- 第10回 平成19年8月8日(水)
テーマ「エネルギー」(分野別・現計画の到達評価4)
グループワーク「どんなところで電気利用が増えたか」
-
- 第11回 平成19年8月22日(水)
テーマ「事業者の取り組み」
-
- 第12回 平成19年9月15日(土)
テーマ「ごみ・自然フィールドワーク」
視察先 関西メタルワーク株式会社、高山竹林園

上記の「現計画」とは、平成10年度策定の「生駒市環境基本計画」のことです。

分野ごとの問題と課題は、15～18ページを、プロジェクトについては、第2章(24ページ以降)をご覧ください。

Step
3

分野ごとの問題の洗い出し
【第13回から第17回】

- 第13回 平成19年9月26日(水)
テーマ「生駒のごみ問題」
「9月15日 フィールドワークの成果共有」
-
- 第14回 平成19年10月10日(水)
テーマ「生駒の交通の問題を明らかにしよう」
-
- 第15回 平成19年10月24日(水)
テーマ「生駒のエネルギー問題を明らかにしよう」
-
- 第16回 平成19年11月7日(水)
テーマ「生駒の自然の問題の洗い出し」
-
- 第17回 平成19年11月21日(水)
テーマ「生駒市の環境教育、問題と感じていること、
実現したいこと」

Step
4

部会の設定と、関心分野ごとに
所属分け【第18回から第19回】

- 第18回 平成19年12月5日(水)
テーマ「委員会の広報と部会設定」
-
- 第19回 平成19年12月19日(水)
テーマ「計画策定部会の確定と 分野ごとの問題
の洗い出し」
以降、下記4部会により、問題の整理・優先順位付け
などの作業をすすめました。

自然環境部会

せいかつ環境部会

まち・みち環境部会

エネルギー環境部会

Step
5

問題の整理と課題設定
【第20回から第23回】

- 第20回 平成20年1月9日(水)
テーマ「今後の進め方、必要な作業/各部会で
生駒の問題の洗い出し」
-
- 第21回 平成20年1月23日(水)
テーマ「各部会で生駒の問題の洗い出し」
-
- 第22回 平成20年2月13日(水)
テーマ「問題の優先順位を整理する」
-
- 第23回 平成20年2月27日(水)
テーマ「企画の立て方 問題を課題に変える」
以降、各部会にて「課題解決・改善のためのプロジェ
クト」立案をすすめました。「策定までの足跡(年表)」、
87ページ以降をご覧ください。

5 指標と目標

計画全体の成果をはかる指標として、CO₂排出量、ごみ排出量、公共交通利用者数、竜田川水質、参加人数を採用し、それぞれの目標として以下を設定しました。

なお、本計画の目標年度は平成30年（2018年）度です。

指標1 CO₂排出量

平成30年（2018年）度の、市域全域でのCO₂（二酸化炭素）排出量を、平成18年度の排出量と比べて14%削減することを目標とします。

ただし、CO₂排出量の削減については、今後の国内外の情勢により、社会的な要求が大きく変っている可能性もあります。そのため、5年後の本計画見直し時期に再検討するものとします。

	現状：平成18年（2006年）度	目標：平成30年（2018年）度
生駒市からの年間CO ₂ 排出量 （万t-CO ₂ ）	28.7	24.7

注）「市町村別エネルギー消費統計作成のためのガイドライン」（経済産業省エネルギー庁（平成18年6月））に基づき算出

指標2 ごみ排出量

- ・ 家庭系ごみ：1人1日のごみ排出量を、平成30年度573g（現在の15%減）にします。
- ・ 再資源化率：生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に準じて、29.13%への向上をめざします。
- ・ 事業系ごみ：生駒市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画に準じて、6,789tに削減します。

	現状：平成19年（2007年）度	目標：平成30年（2018年）度
1人当たりごみ排出量（g/人日）	673.2	573.0
再資源化率（%）	16.84	29.13
事業系ごみ（t）	9,128	6,789

指標3 公共交通

- ・ 鉄道利用者数：現状維持から0.5%増を目標とします。
- ・ 路線バス利用者数：10%増を目標とします（生駒駅及び東生駒駅を発着するバス路線のみ）。
- ・ コミュニティバスなど、代替交通の新規路線数：複数ルートの実現を目標とします。

	現状：平成19年（2007年）度	目標：平成30年（2018年）度
鉄道利用者数（千人）	19,210	20,171
路線バス利用者数（千人）	5,078	5,586
代替交通の路線（本）	1	増加

指標 4 河川水質

- ・ 竜田川の水質が、観測地点平均（年間平均）で BOD：5mg/l 以下となることを目標とします。
- ・ 目安として、「メダカがどこでも当たり前に見られる川」

	現状：平成 19 年（2007 年）度	目標：平成 30 年（2018 年）度
阪奈道路下（mg/l）	16	5 以下
東生駒川合流前（mg/l）	10	
大宮橋下（mg/l）	9.8	
市境（mg/l）	8.0	

指標 5 参加人数

生駒市環境基本計画推進組織（以下、「計画推進組織（仮称）」という。）が主催、または共催する講座や行事への参加者が、10 年間の延べ人数で、生駒市の総人口（約 11 万 7 千人）と同数になることを目標とします。

5 つの指標の評価

以下の図は、現状を 50（基準値）として、目標値を 100 としたものです。5 つの指標をバランスよく発展させ、目標に近づくことをめざします。指標ごとの評価方法と表現については、今後設立される推進組織（第 3 章参照）で検討します。

